

審査の結果の要旨

高山 智子

本研究は診療場面における効果的なコミュニケーションについて、患者の参加にとって重要な医師、患者、環境の要因から医師・患者間の情報交換や患者の診療場面への参加に及ぼす影響を検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 初診を除く外来乳癌患者 133 名に調査票、オーディオテープ録音の調査を実施し、調査票、録音テープの両方のデータが得られた 86 診療に対して分析を行った。医師・患者のコミュニケーション行動（言語的側面）は、RIAS (Roter Interaction Analysis System)を用いて、オーディオテープから分類を行い、「患者の参加の感覚（「話ができたと感じる感覚」、「理解されたという感覚」）」および「医師のコミュニケーションスタイル」の患者による認知については、調査票から把握した。

観察されたコミュニケーション行動と対象者本人から報告されたコミュニケーションの認知との間に関連性が認められた。医師の“open-end の質問”や“意見や質問を促す言葉かけ”行動が多いほど、また、医師の「傾聴的受け答え」行動が少ない場合に、「医師のコミュニケーションスタイル」は、協働的であると患者に認知されていた。一方、「患者の参加の感覚」のうち、患者の「話ができたと感じる感覚」は、「患者の言語的な参加」のいずれの項目とも単相関のみで正の関連が示された。この結果から、患者に話す機会を提供するような医師のコミュニケーションスタイルとコミュニケーション行動の重要性が示唆された。

2. 患者の認知による「医師のコミュニケーションスタイル」は、医師の言語的なコミュニケーション行動に関する項目群によって分散の約 20%が説明され、「患者の参加の感覚」は、「患者の言語的な参加」によって分散の約 10%が説明された。このことから、診療場面のコミュニケーションについて、患者はある程度は、客観的事実に基づいて「医師のコミュニケーションスタイル」や「患者の参加」を判断していることが示唆された。しかし、言語的なコミュニケーション行動によって説明されていない分散はより大きく、「医師のコミュニケーションスタイル」および「患者の参加の感覚」が今回捉えきれなかった、医師の非言語的な態度や患者の特性、それまでの医師との関係性等によって、影響を受けている可能性も示唆された。
3. 診療時間が短い場合に患者の「心理社会的な情報提供(p<0.05)」と「質問(p<0.0001)」が少

なくなっていた。患者の心理社会的な情報提供や質問は、診療時間が短い場合に抑制されやすく、時間の限られた診療場面では、医師よりも患者の発言が制限されやすいことが示された。

4. 「医師のコミュニケーションスタイル」が協働的と患者に認知されているほど、患者の「心理社会的な情報提供」は多くなり、「理解されたという感覚」は高くなるという主効果が認められた。さらに、「医師のコミュニケーションスタイル」が患者により協働的と認知されている場合には、医師の「傾聴的受け答え」行動は、「患者の参加の感覚」を有意に高め、また、医師の「質問」は、「患者の言語的な参加」および「参加の感覚」を高めるといった傾向がある一方、「患者の言語的な参加」である「質問」を有意に少なくする傾向が認められた。「医師のコミュニケーションスタイル」における協働性は、概して「患者の言語的な参加」および「参加の感覚」を促進しており、医師の言語的な側面以外に、患者が医師の態度をどう受け止めているかに関わっている医師の非言語的な側面もまた重要であることが示唆された。
5. 「診療場面の忙しさ」の患者による認知は、「患者の言語的な参加」とは関連がみられなかったが、「診療場面の忙しさ」が患者により認知されている場合には、「患者の参加の感覚」は高められるという主効果が認められた。次に、「患者の参加」に対する「医師の言語的なコミュニケーション行動」と「診療場面の忙しさ」の相互作用の検討では、診療場面が忙しくないとき患者が認知している場合には、医師の「傾聴的受け答え」行動や「質問」により、「患者の言語的な参加」が促進されるという関連が認められたが、逆に、「患者の参加の感覚」は、高められるという傾向が認められた。患者が診療場面の忙しさを感じている場合には、「患者の言語的な参加」が抑制される一方で、「患者の参加の感覚」が高められるという矛盾する結果が得られた。診療環境に原因を帰属させることによって、医師・患者間の相互作用の評価がより肯定的に認識されるという機序が作用している可能性が示された。

以上、本論文は医師、患者だけでなく診療環境も含めたより広い枠組みの中で、医師・患者間の情報交換や患者の診療場面への参加に及ぼす影響を明らかにした。本研究はこれまで検討がなされていなかった、診療場面における患者の参加に及ぼす機序の解明に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。